

編集後記：最近私は、研究の議論が楽しくて仕方がありません。研究を本務とする方々は少なからずみなそういうものでしょうし、私も昔からそれなりに楽しんできたつもりではあります。しかし、ここ1年ほど以前まではあまり味わったことのないような自分の中の盛り上がりや興奮を覚えることが非常に多くなりました。

発表者として自分の研究成果を題材に議論を提供する立場のとき、予想もしない議論の展開になるときの興奮はもちろんですが、思い通りに盛り上がらないときの難しさをどう解決するかと思悩むことすら楽しみの1つです。聴衆の1人として発表者の提供する議論に参加する立場のとき、発表者に質問や意見をぶつけながら何故自分がそのことに違和感を覚えたり、妙に気にしたりしていたのかを後で振り返ってみると自分の価値観をいつもより少し客観的に見直すことができる気がします。自分以外の聴衆と発表者が行っている議論を眺める立場のとき、議論の流れの潮目や分岐点のようなものを感じ取りながら目を凝らしていると、スポーツの試合を生で観戦しているときのような気分になります。

そういった議論の楽しみ方は、以前からも自分なり

にずっと模索してきたつもりだったのですが、ここ1年での自分の中での感覚の変化は非常に大きく、今まで感じたことのないものです。言葉にするのはとても難しい感覚の問題ではあるのですが、その変化が自分に起こった要因を考えてみると、1つは、この「天気」の編集委員を2年前からやらせて頂いていることにあると思います。皆様から投稿頂いた記事を編集委員としてより深く読む機会が増えたことは、自分自身が様々な議論を楽しむための技術の向上に少なからず貢献しているように思えます。そしてそう感じ始めたときから、この編集委員の仕事も以前にも増して楽しめるようになってきました。また、「天気」にお寄せ頂いている様々な原稿に対する有り難さをより強く感じるようになりました。

はなはだ個人的な理由からではありますが、「天気」に投稿頂いた記事への感謝をこの場を借りて述べさせていただきます。日頃、各記事の執筆に貢献して頂いている皆様、本当に有り難うございます。今後も様々な記事のご投稿を編集委員の1人としてとても楽しみにしております。

(茂木耕作)